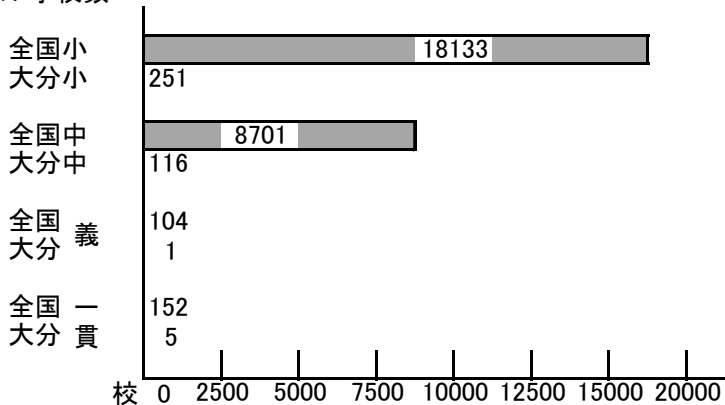


この資料は令和元年度「全国公立学校教頭会の調査」に基づいて作成しました。

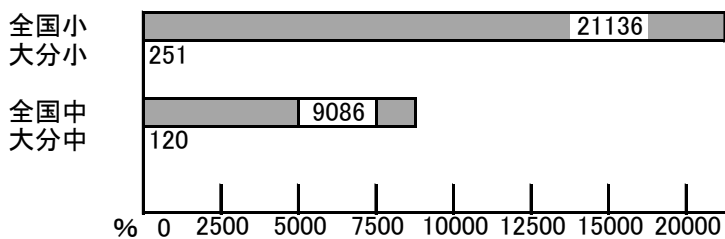
[団体調査]

1. 学校数

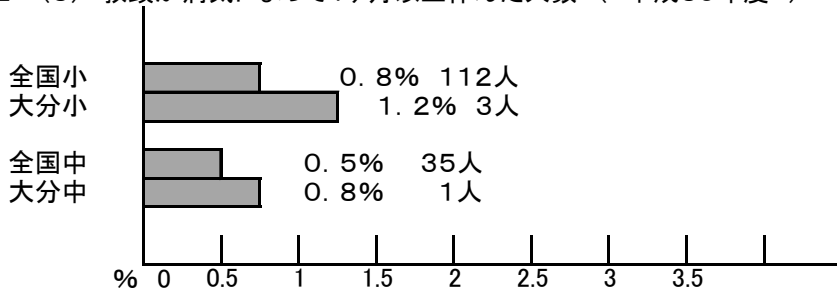


分析 : ○は全国、◇は大分県

2-1) 副校長・教頭数



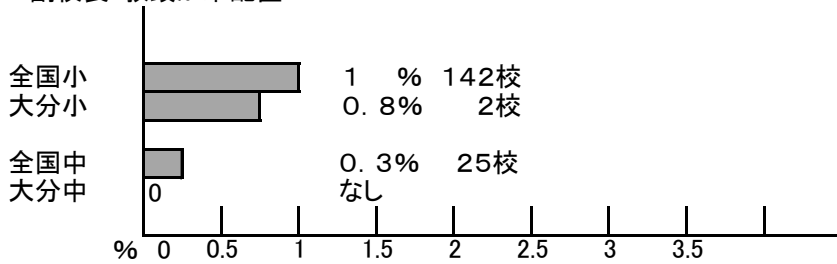
2-3) 教頭が病気によって1ヶ月以上休んだ人数 (平成30年度)



○ 小学校0.8%、中学校0.5%の教頭が病気によって1ヶ月以上休んでいる。

◇ 大分県の病気休職の割合は小・中ともに全国より高い。

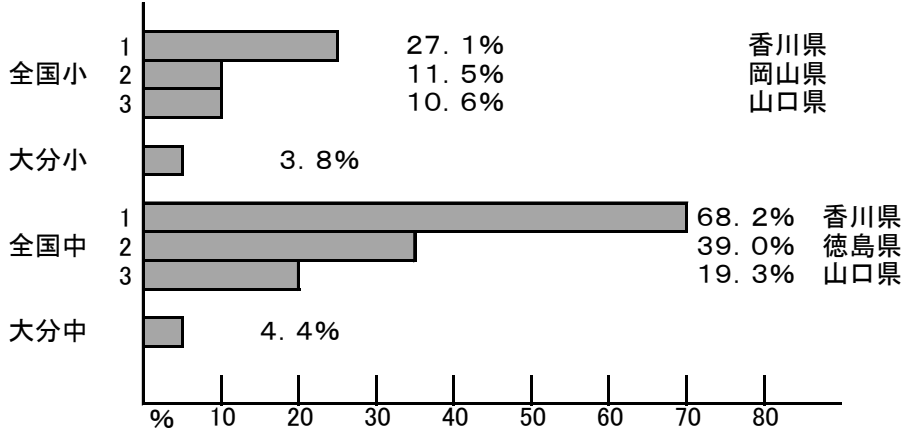
3. 副校長・教頭が未配置



○ 小学校1%、中学校0.3%が未配置となっている。

◇ 大分県内には、小学校に2校教頭未配置校がある。

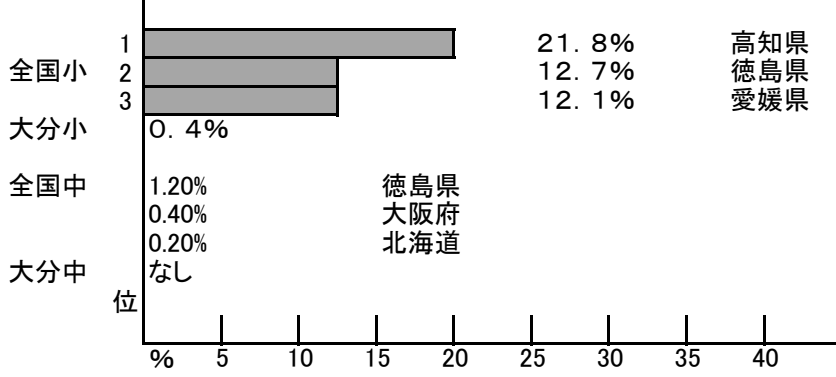
4. 教頭の複数配置



○ 香川県は教頭の複数配置の割合が非常に高い。

◇ 大分県の複数配置は低い。

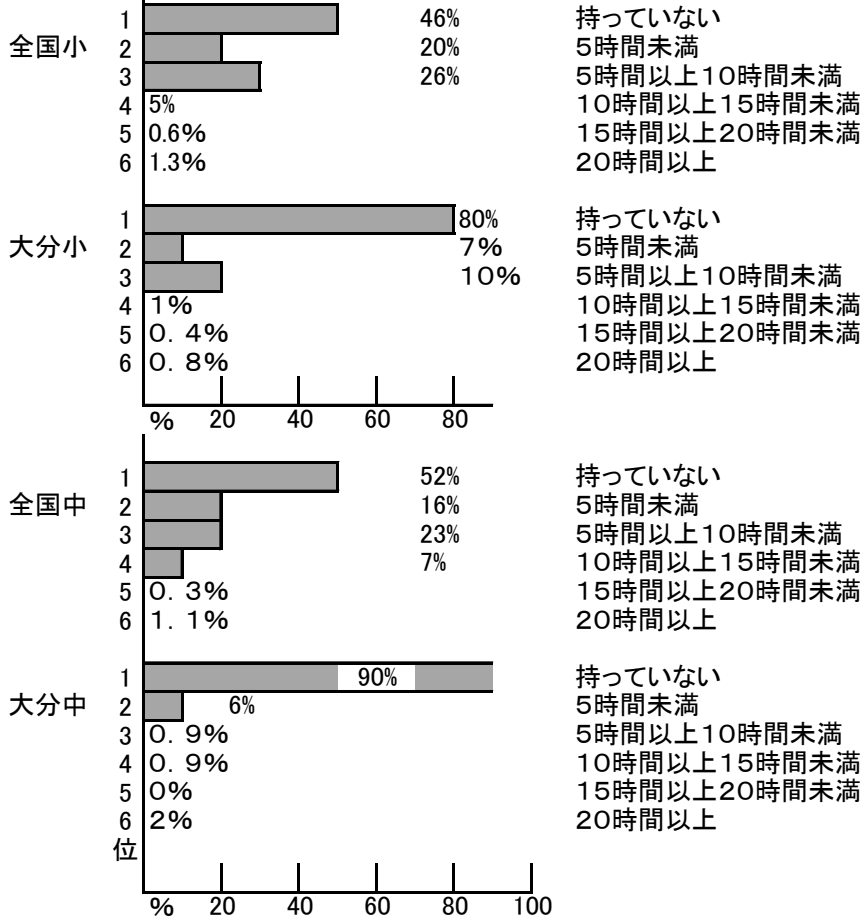
5. 学級担任の兼務



- 学級担任を兼務している割合が小学校では四国が非常に高い。
- ◇ 大分県は学級担任を兼務している割合が低い。

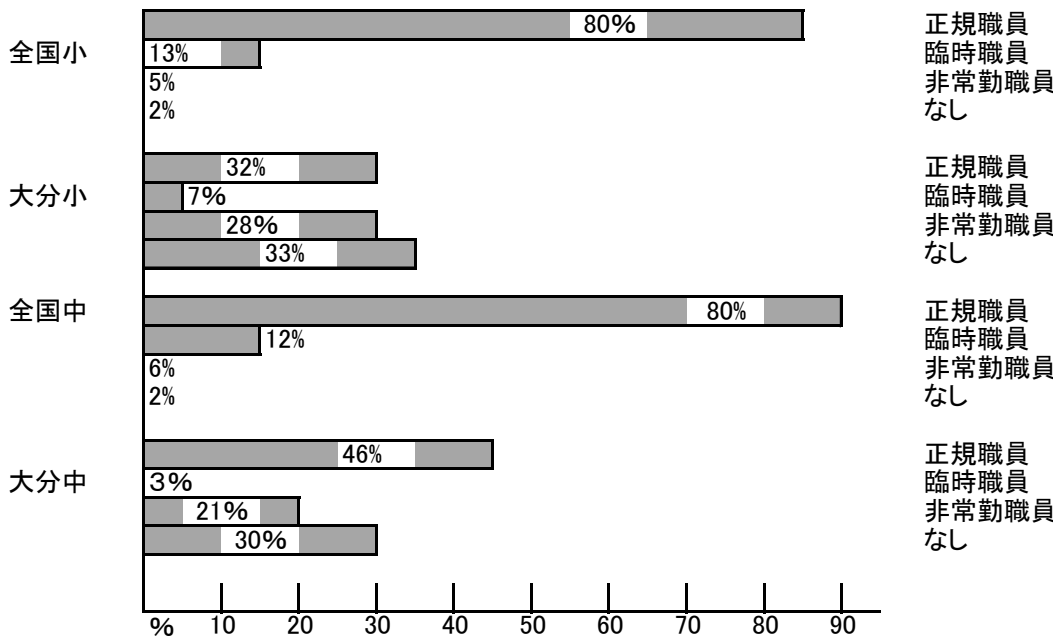
[個人調査]

12. 持ち時間数



- 全国では小学校で授業を受け持っている教頭の割合が半数を超えている。
- ◇ 大分県は全国に比べると低いが、2割の教頭が授業を受け持っている。
- 全国では中学校で授業を受け持っている教頭の割合が半数近く見られる。
- ◇ 大分県は全国に比べると低いが、1割の教頭が授業を受け持っている。

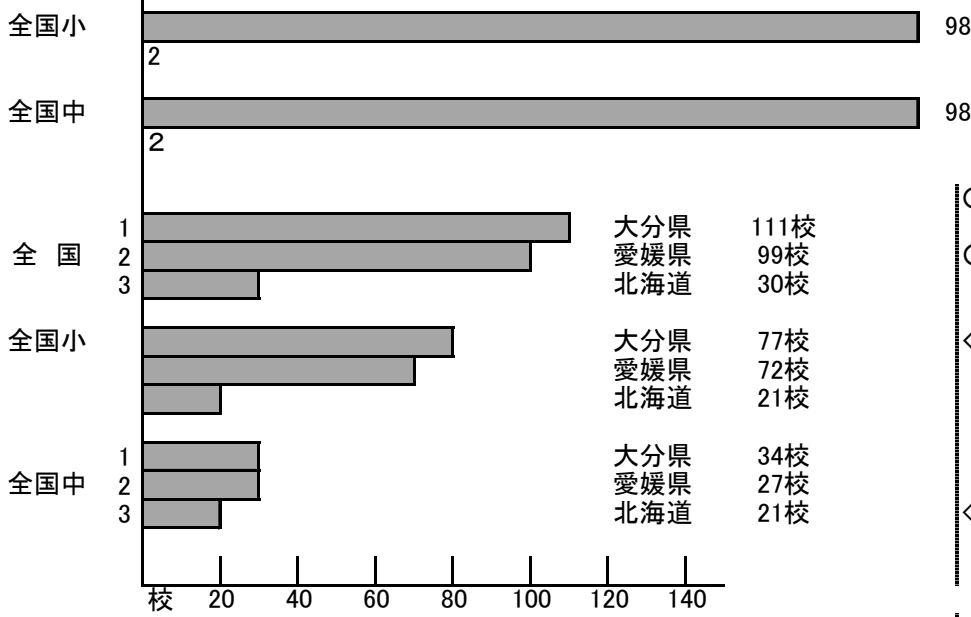
13-1 学校事務職員の配置状況



- 全国的には8割以上が正規職員を配置している。
- ◇ 大分県は正規職員の配置が半数以下である。
- ◇ 大分県は事務職員の未配置校が全国と比べて格段に多い。
大分小 33%
大分中 30%

※ 13-1 学校事務職員の配置の中の「なし」の項目を次のように整理しました。

【 事務職の兼務 】

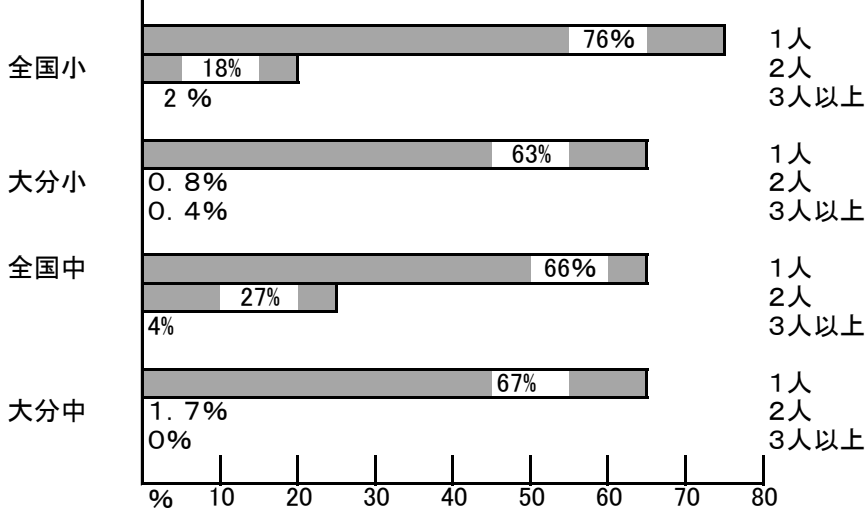


兼務していない
兼務している

兼務していない
兼務している

- 全国の98%の学校は兼務していない。
- 小学校、中学校でそれぞれでは2%が兼務している。
- ◇ 大分県・愛媛県の事務職の兼務者は全国で飛び抜けて多い。
このことが九州・全国の会議で悪い意味で、よく話題になります。
- ◇ 令和元年度の大分県公立学校教頭会の調査では事務職の兼務校数は小学校84校、中学校37校、合計121校
- 4位は鹿児島県23校、5位福島県19校

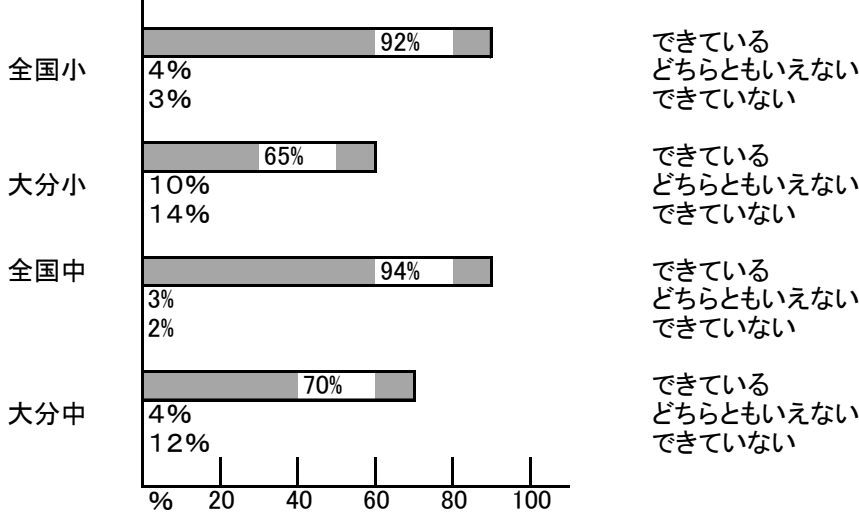
13-2 事務職員数



○ 全国的には事務職員の複数配置の割合が高い。

◇ 大分県は、事務職員の未配置校が多く、複数配置は非常に少ない。

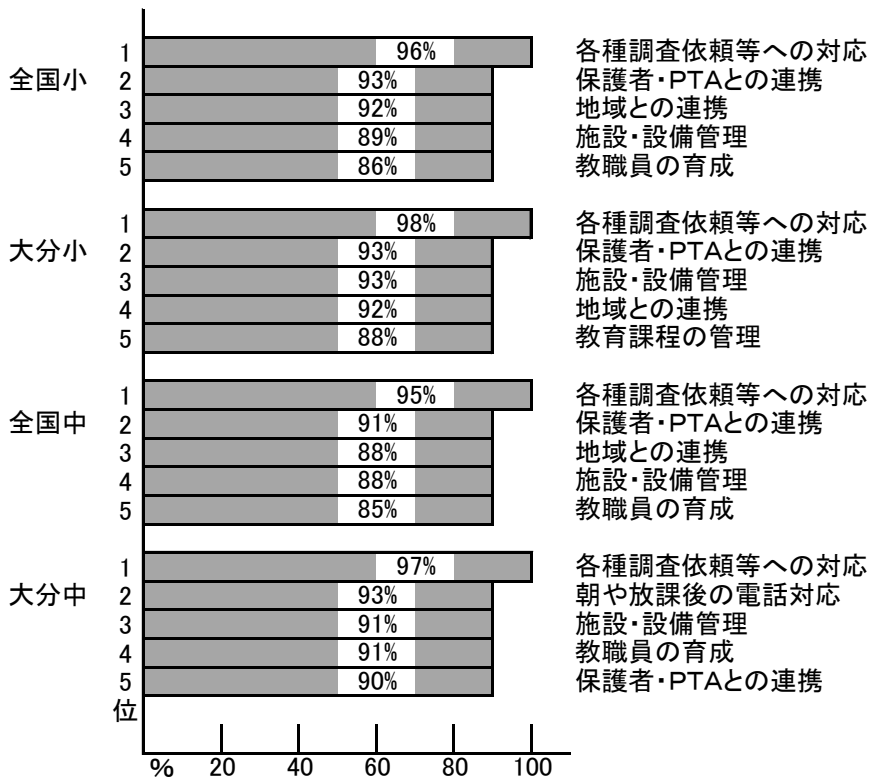
13-3 事務職員との役割分担はできていますか。



○ 全国的には事務職員との役割分担ができていない割合が高い。

◇ 大分県は、全国と比較すると役割分担ができていないと回答する割合が低い。

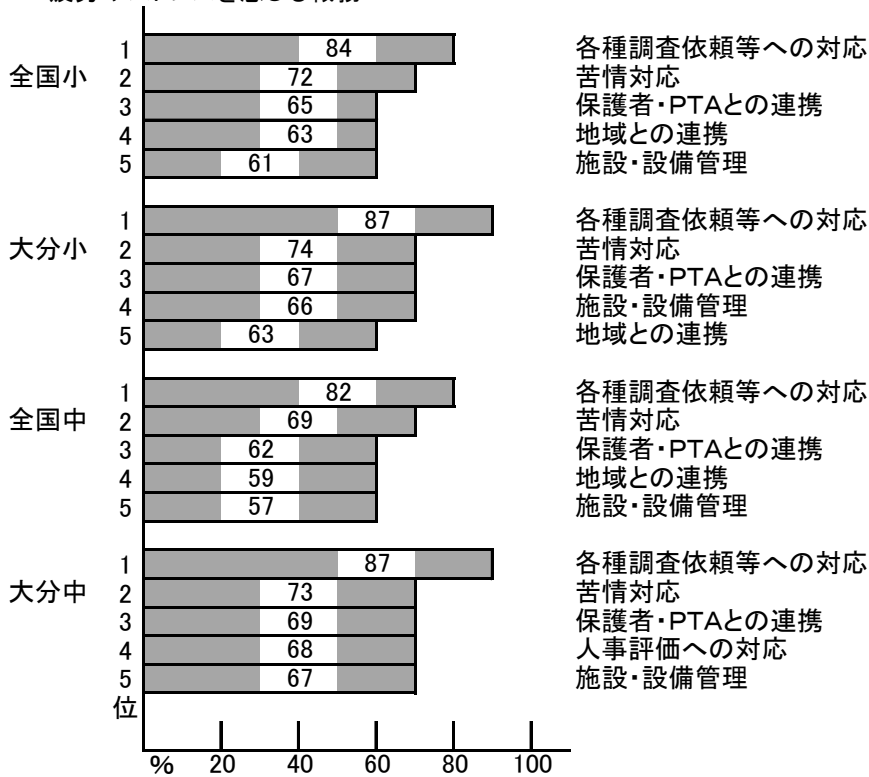
14. 時間と労力を費やしている職務



○ 各種調査依頼等への対応に時間を費やす割合が非常に高く、報告書等の文書作成に追われていることがわかる。

◇ 大分県と全国を比べると、時間と労力を費やしている職務に大きな違いは見られない。

15. 疲労やストレスを感じる職務

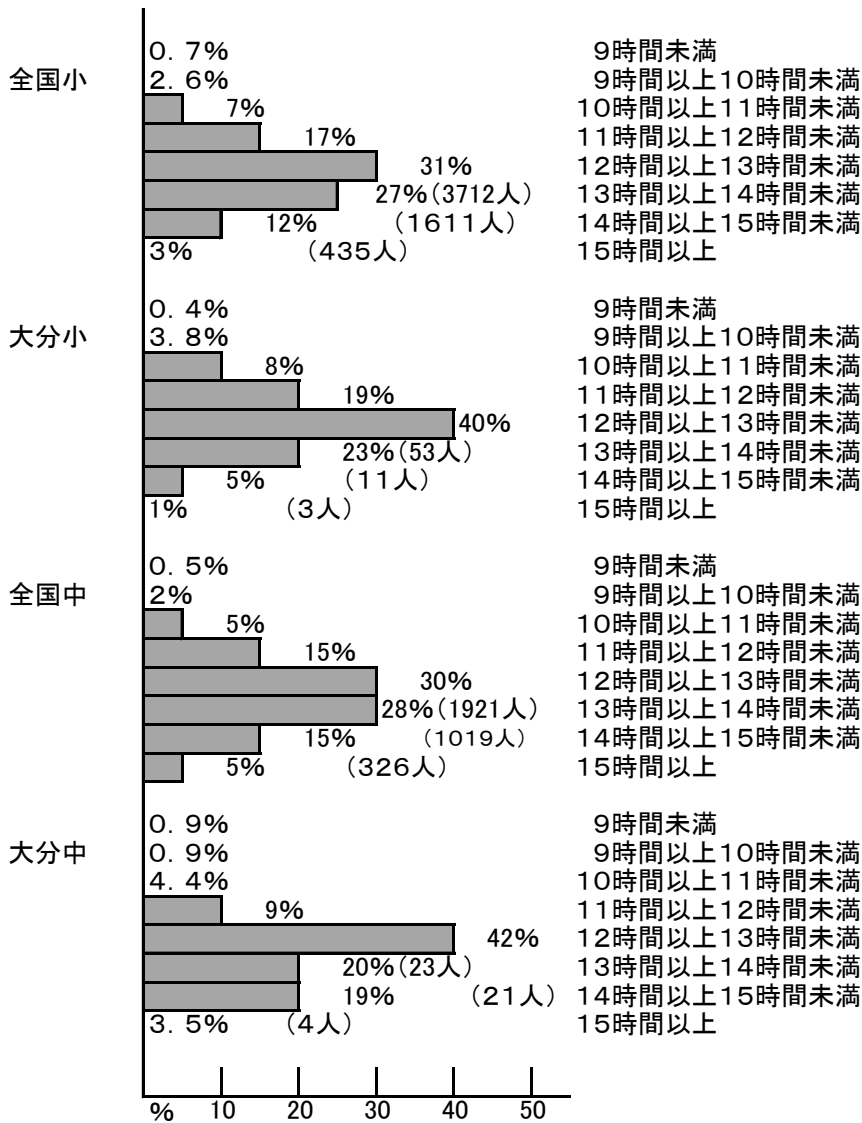


○ 各種調査依頼等への対応が一番多く、大きなストレスとなっている。

○ 苦情対応が第2位で、保護者や地域住民への対応にストレスを感じている教頭は多い。

◇ 大分県では、人事評価への対応にストレスを感じる教頭も中学校では多く見られる。

16. 通常の勤務時間



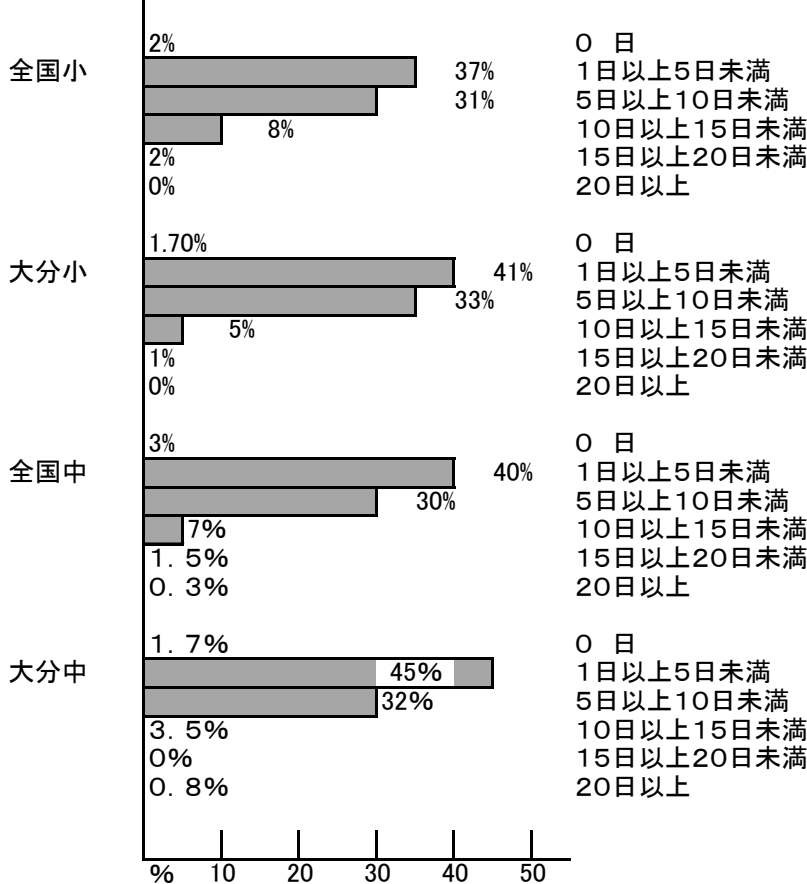
○ 全国的には12時間以上勤務している教頭の割合が小中学校で73%～78%である。

○ 小学校と中学校を比べると、中学校が勤務時間が長い。

◇ 大分県の小学校では12時間以上勤務している割合は69%である。

◇ 大分県の中学校では12時間以上勤務している割合が84.5%である。

17. 年次有給休暇の取得状況

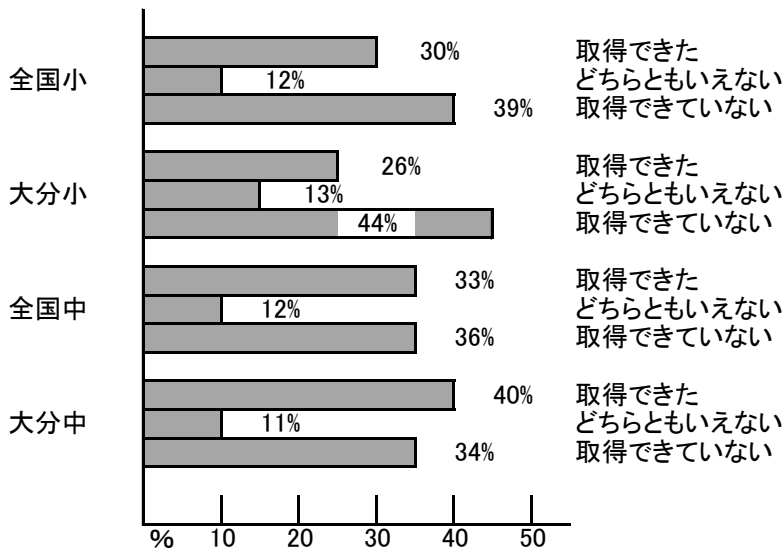


○ 全国では68%～70%の教頭が1日以上～10日未満の有給をとっている。

◇ 大分県でも74%～77%の教頭が1日以上～10日未満の有給をとっている。

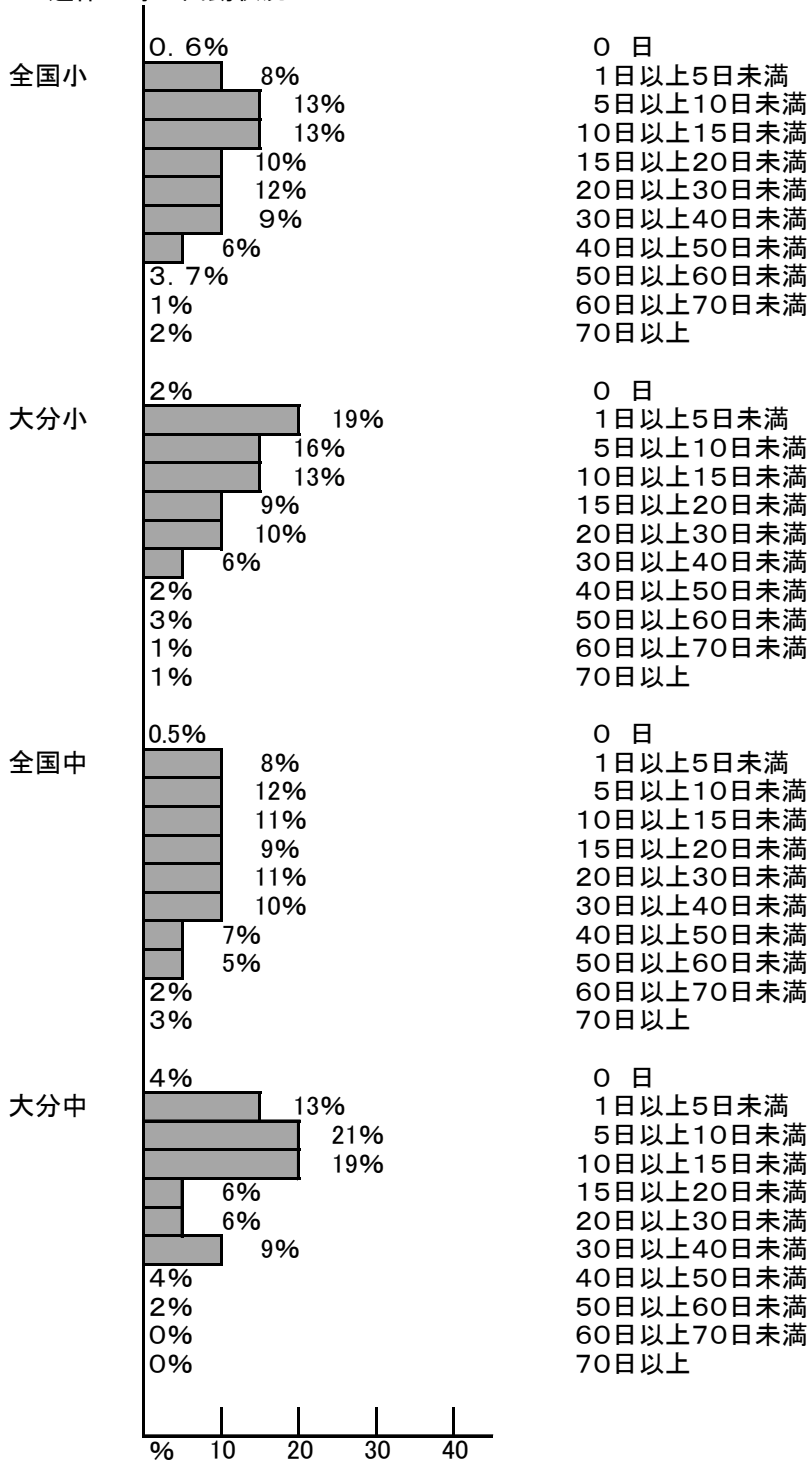
○、◇ 全国・大分県ともに、有給休暇を全く取らない教頭も1.7%～3%いる。

18. 振替(代休)の取得状況



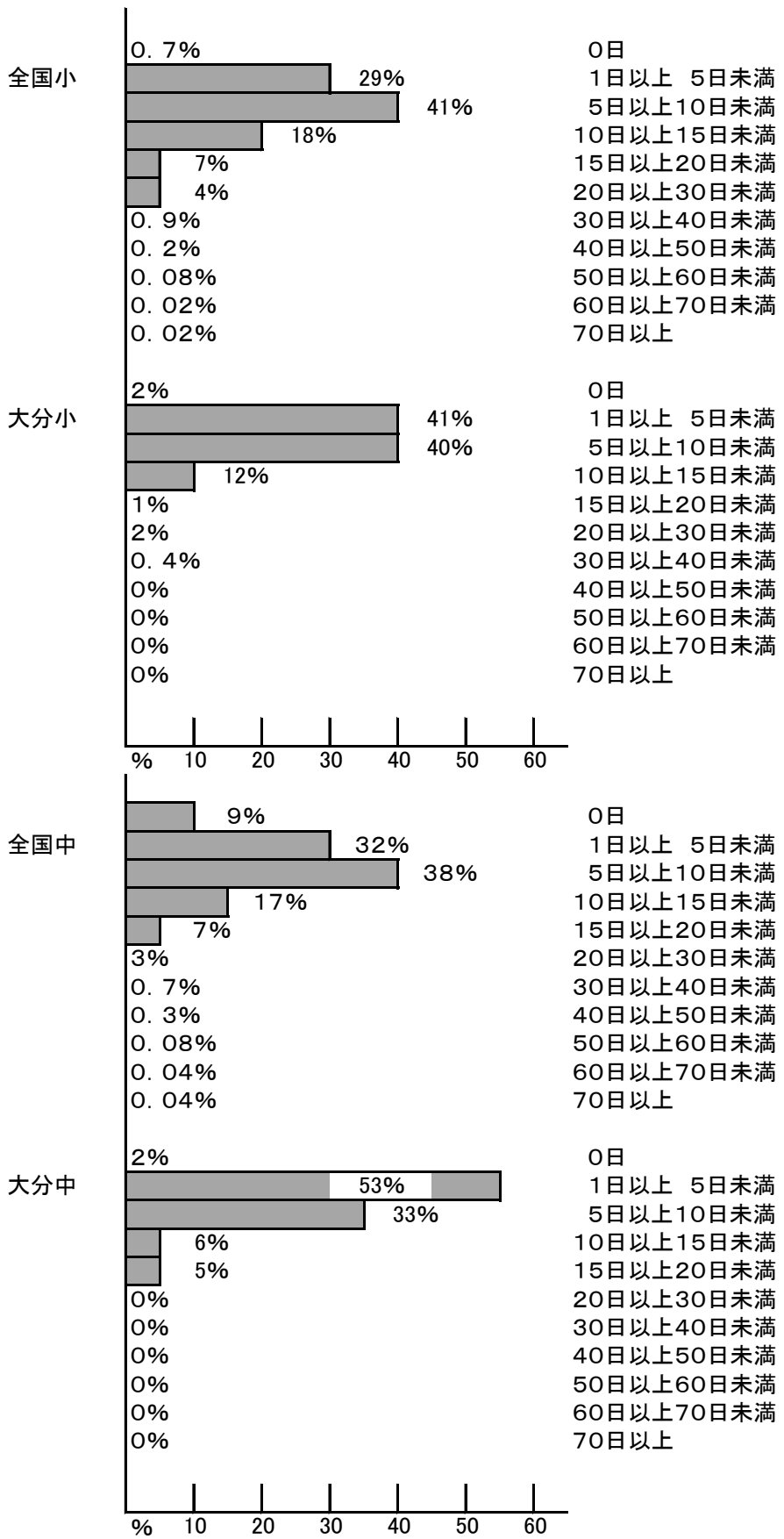
- 全国小・中とも振替休暇を取得できていない教頭が多い。
- ◇ 大分小は振替休暇を取得できていない教頭が多い。
- ◇ 大分中は振替休暇を取得できている教頭が多い。

19. 週休日等の出勤状況



- 1日以上15日未満の出勤割合は、全国小 34% 全国中 38%
- 全国的には小中とも休日出勤日数のばらつきが大きい。
- ◇ 1日以上15日未満の出勤割合は、大分小 48% 大分中 53%
- ◇ 大分県は小中とも休日出勤日数は少ない方に集中している。

20. 地域行事参加数



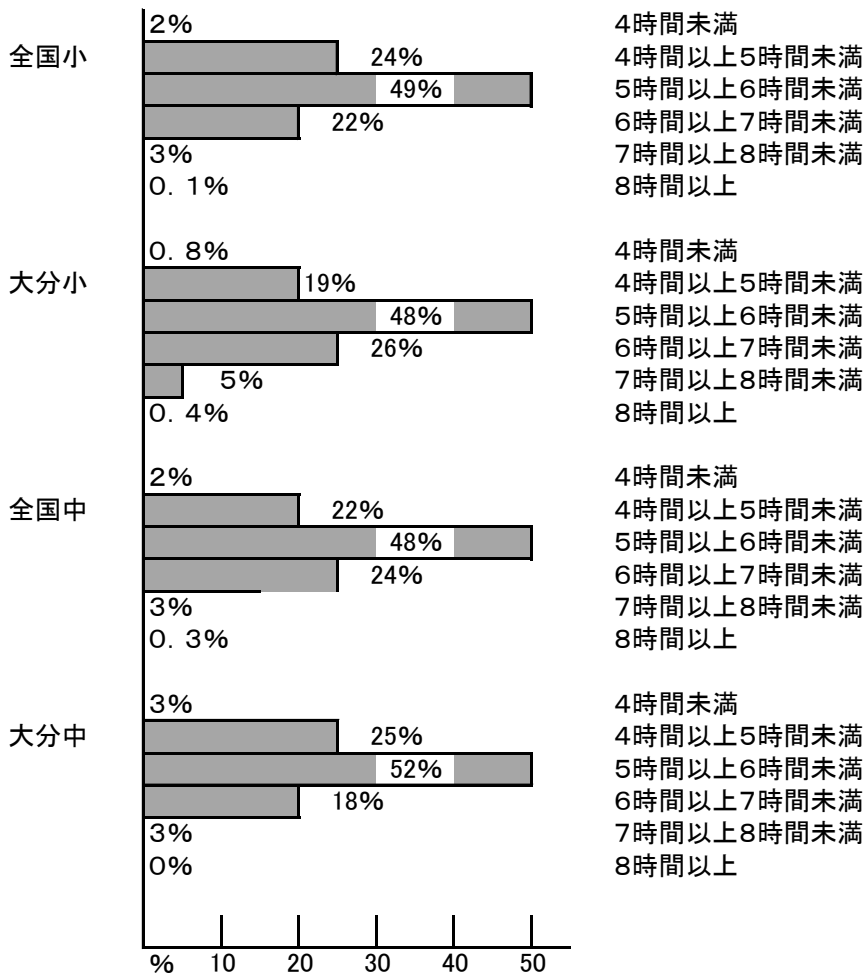
○ 10日未満の参加割合は

全国小 70%
全国中 70%

大分小 81%
大分中 86%

○ 全国的には参加割合は
1日以上から30日未満まで
幅が広い。

◇ 大分県は1日以上から
20日未満までに集中している。



○、◇ 全国・大分県ともに
5時間以上6時間未満の
睡眠をとる教頭の割合が高い。

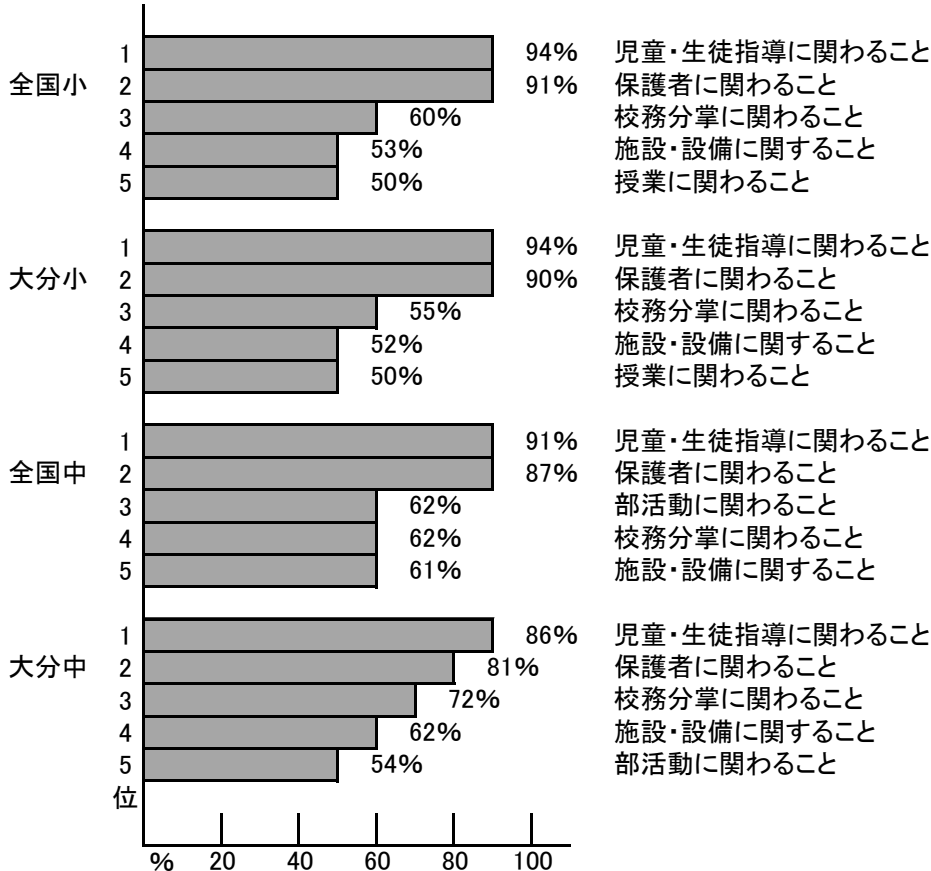
○ 4時間以上～7時間未満の
睡眠をとる教頭は、

全国小 95%
全国中 94%

◇ 4時間以上～7時間未満の
睡眠をとる教頭は、

大分小 93%
大分中 95%

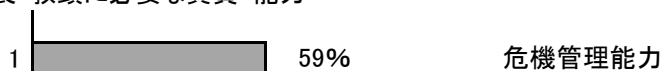
22. 教職員からの相談内容



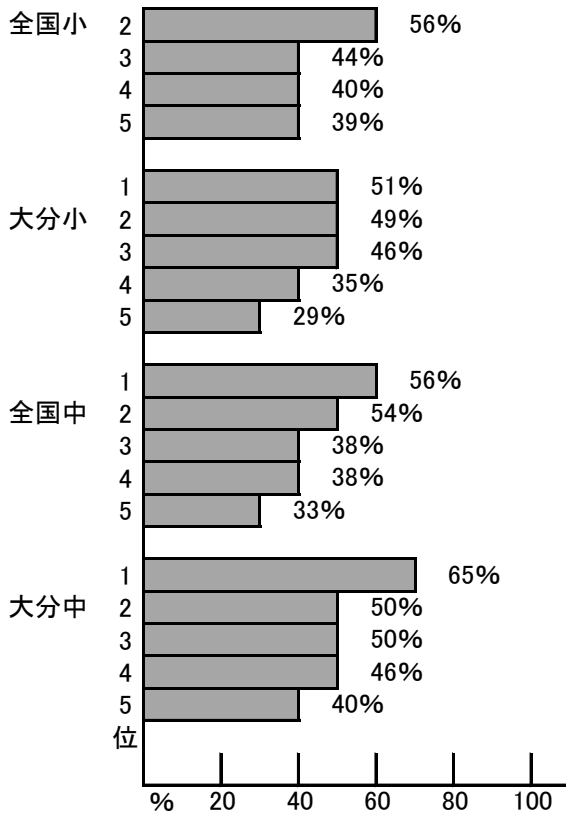
○、◇ 全国小と大分小では
相談内容・順番は共通している。

○、◇ 全国中と大分中에서도
相談する内容は共通しているが、
順位は少し異なる。

23. 副校長・教頭に必要な資質・能力



○ 全国的には「危機管理能力」と



豊かな人間性
地域・保護者と連携・協働する力
学校ビジョン実現のための組織マネジメント力
校長と連携する力

危機管理能力
学校ビジョン実現のための組織マネジメント力
豊かな人間性
校長と連携する力
事務処理能力

豊かな人間性
危機管理能力
学校ビジョン実現のための組織マネジメント力
地域・保護者と連携・協働する力
事務処理能力

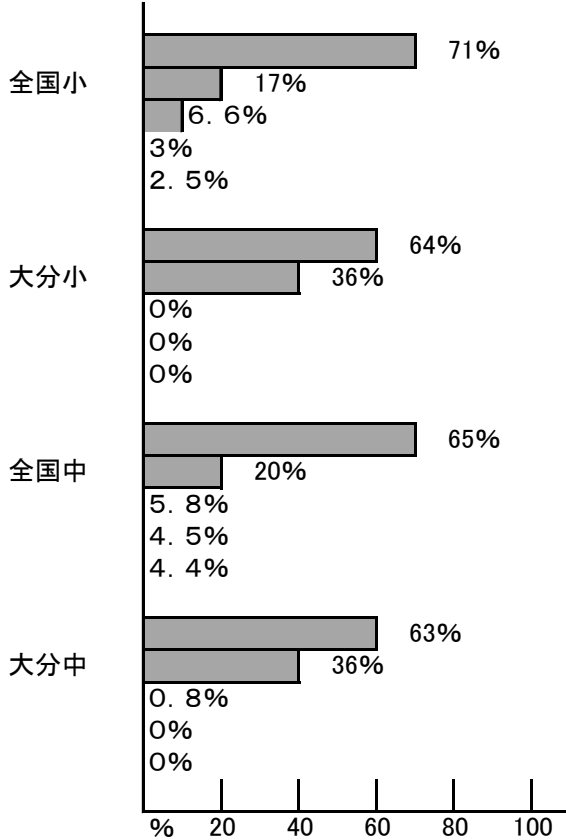
豊かな人間性
危機管理能力
校長と連携する力
学校ビジョン実現のための組織マネジメント力
地域・保護者と連携・協働する力

「豊かな人間性」が上位に来ている。
○ 全国的に「学校ビジョン実現のための組織マネジメント力」は2位から4位に入っている。

○ 全国中の5番目に「事務処理能力」が入っている。

◇ 大分小の5番目に「事務処理能力」が入っている。

24-1 主幹教諭の配置人数



なし
1人
2人
3人
4人以上

なし
1人
2人
3人
4人以上

なし
1人
2人
3人
4人以上

なし
1人
2人
3人
4人以上

○ 全国的には「配置なし」は、65%~71%

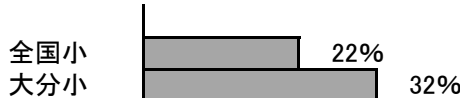
◇ 大分県の「配置なし」は、63%

○ 一人配置は
全国 17%~20%
大分 36%

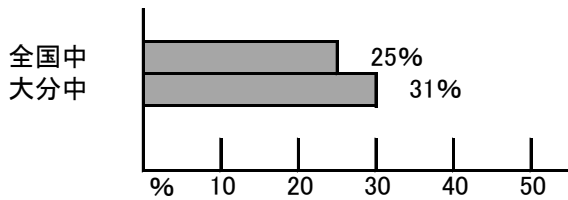
○ 全国は2人以上の配置が2%から6%ある。

◇ 大分は2人以上の配置はなし。

24-2 主幹教諭は副校長・教頭の補佐

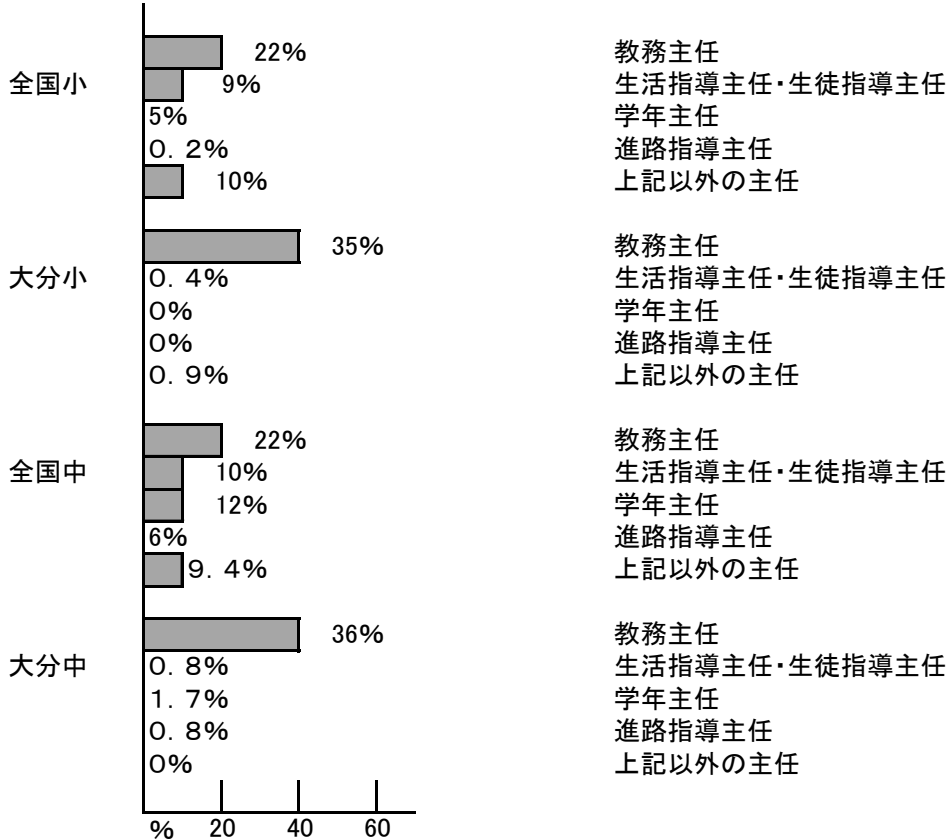


◇ 主幹教諭が副校長・教頭の補佐という位置づけは大分県が全国より



約10%高い。

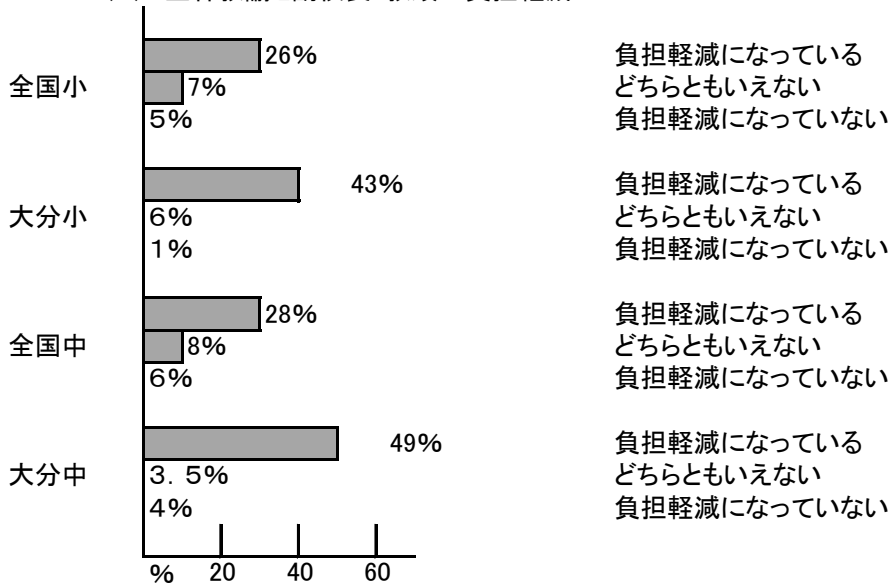
24-2-(2) 主幹教諭の職務



○ 全国的は「教務主任」「生活指導主任」「生徒指導主任」「学年主任」「進路指導主任」「その他の主任」など各種主任の職務が与えられて居る。

◇ 大分県では「教務主任」の職務を担当している割合が高い。

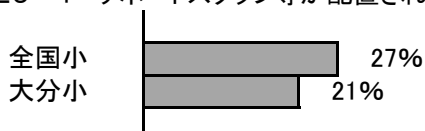
24-2-(3) 主幹教諭と副校長・教頭の負担軽減



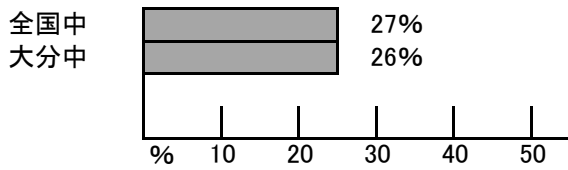
○ 全国的には「負担軽減になっている」と回答しているのは26~28%

◇ 大分県では「負担軽減になっている」と回答しているのは43~49%で、全国より高い。

25-1 サポートスタッフ等が配置されている

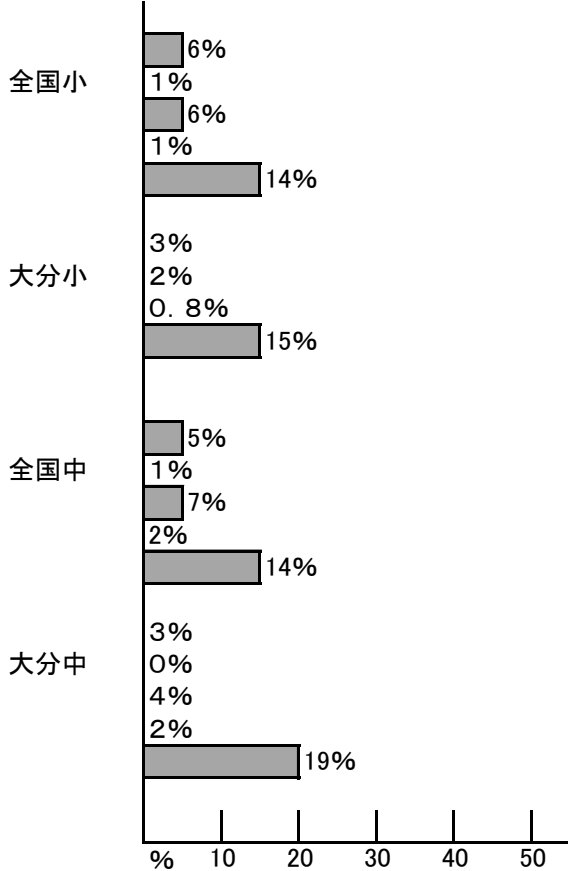


○ サポートスタッフ等が配置されている割合は全国の方が大分県より少し高い。



◇ 大分県での「サポートスタッフ等」の配置の割合は21～26%である。

25-2 サポートスタッフ等の経歴



退職教員
保護者
地域支援者
業者からの派遣
その他

退職教員
保護者
地域支援者
業者からの派遣
その他

退職教員
保護者
地域支援者
業者からの派遣
その他

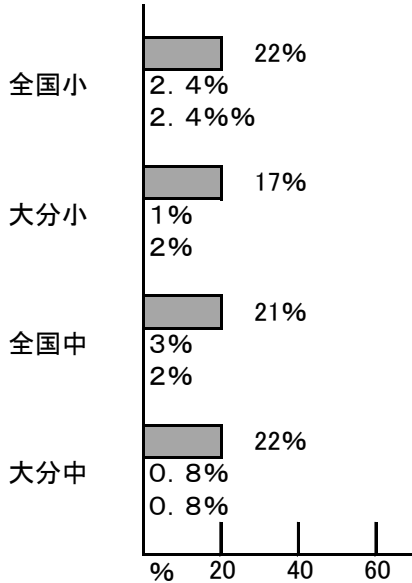
退職教員
保護者
地域支援者
業者からの派遣
その他

○ 全国的には「その他」「退職教員」「地域支援者」の割合が高い。

◇ 大分小では「業者からの派遣」の割合が高い。

◇ 大分中では「その他」の割合が高い。

25-3 サポートスタッフと副校長・教頭の負担軽減



負担軽減になっている
どちらともいえない
負担軽減になっていない

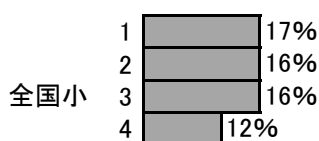
負担軽減になっている
どちらともいえない
負担軽減になっていない

負担軽減になっている
どちらともいえない
負担軽減になっていない

負担軽減になっている
どちらともいえない
負担軽減になっていない

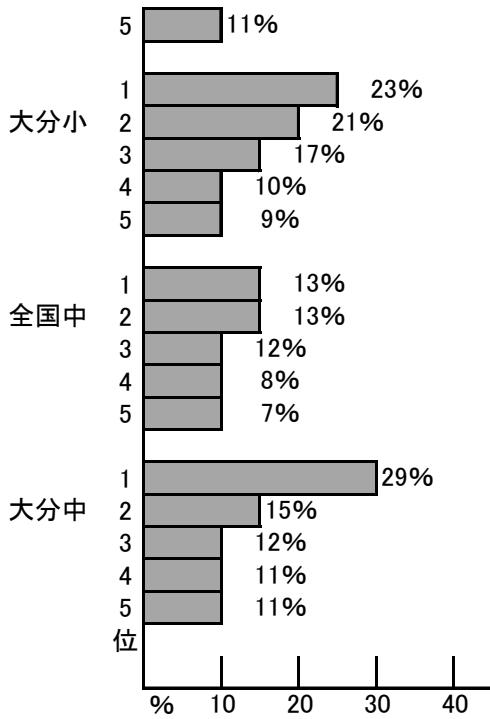
○ ◇ 小中とも全国・大分県で大きな差異はない。サポートスタッフが配置されている学校では、副校長・教頭の負担軽減に繋がっている。

26. スクールカウンセラーの配置状況



年間 6～10回
配置されていない
年間11～15回
年間 1～ 5回

○ 全国では、中学校に比べて小学校に配置されていない割合が高い。



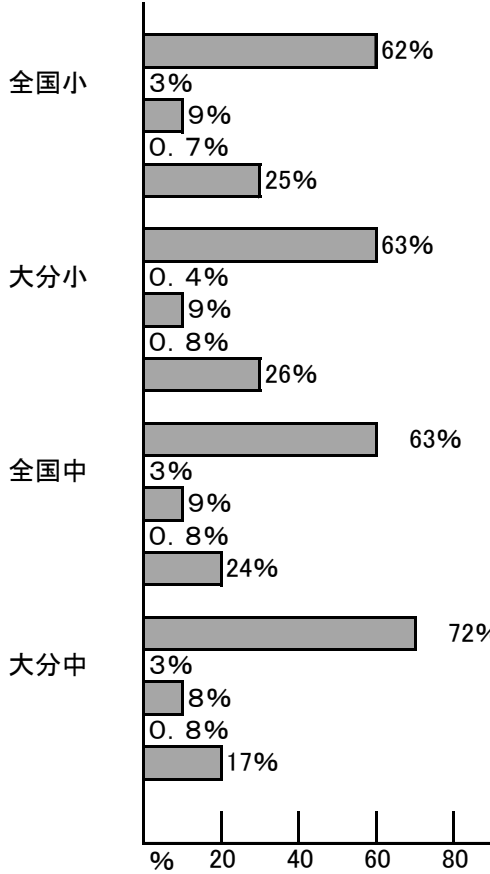
年間16~20回
 配置されていない
 年間 1~ 5回
 年間 6~10回
 年間31~35回
 年間11~15回

◇ 大分県でも、中学校に比べて小学校に配置されていない割合が高い。

◇ 大分県の小学校の1/4には配置されていない。

◇ 大分県の中学校ではスクールカウンセラーは週1回程度来校しているが、小学校の来校回数はかなり少ない。

27. 校務支援システムの導入状況



自治体として導入
 学校独自で導入
 自治体として導入を検討中
 学校として導入を検討中
 導入していない

○ 校務支援システムの導入が進んでいる。

H30年 → 令和元年度
 全国小 41% → 62%
 全国中 45% → 63%

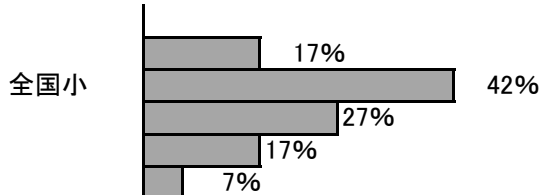
自治体として導入
 学校独自で導入
 自治体として導入を検討中
 学校として導入を検討中
 導入していない

◇ 大分県でも校務支援システムの導入は進んでいる。

H30年 → 令和元年度
 大分小 46% → 63%
 大分中 51% → 72%

自治体として導入
 学校独自で導入
 自治体として導入を検討中
 学校として導入を検討中
 導入していない

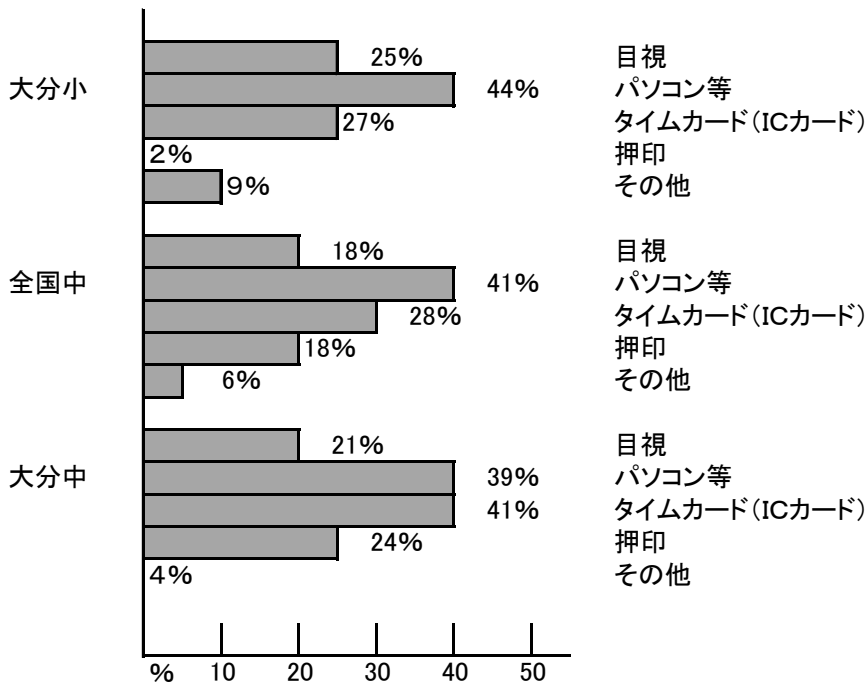
28-1 出勤時刻の管理方法



目視
 パソコン等
 タイムカード(ICカード)
 押印
 その他

○ 働き方改革の中で、タイムカードによる管理が増えてきています。

H30年 → 令和元年度

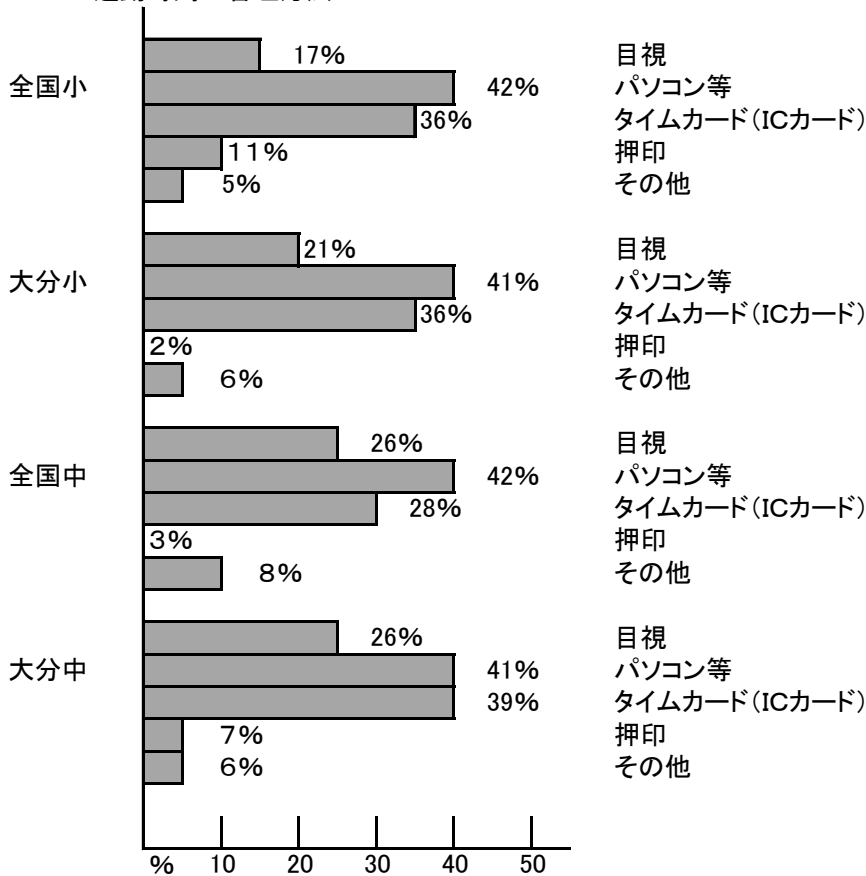


全国小 13% → 27%
 全国中 13% → 28%

◇ 大分県でも働き方改革の中で、タイムカードによる管理が増えてきています。

H30年 → 令和元年度
 大分小 2% → 27%
 大分中 6% → 41%

28-2 退勤時刻の管理方法



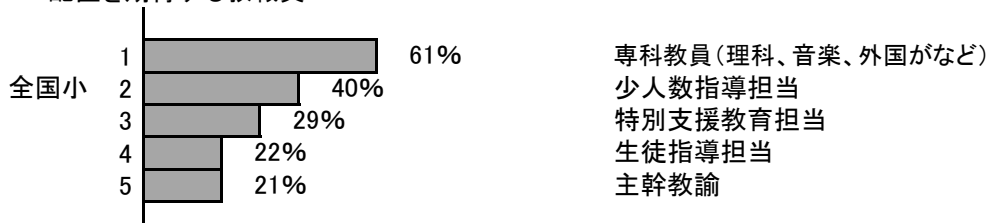
○ 働き方改革の中で、タイムカードによる管理が増えてきています。

H30年 → 令和元年度
 全国小 12% → 36%
 全国中 13% → 28%

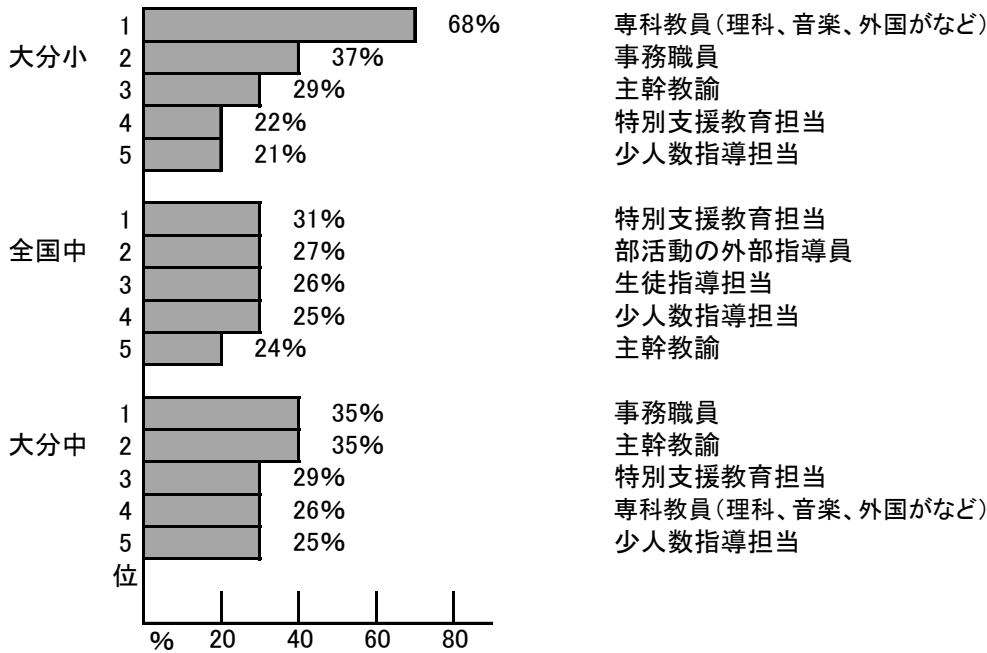
◇ 大分県でも働き方改革の中で、タイムカードによる管理が増えてきています。

H30年 → 令和元年度
 大分小 2% → 36%
 大分中 6% → 39%

29. 配置を期待する教職員

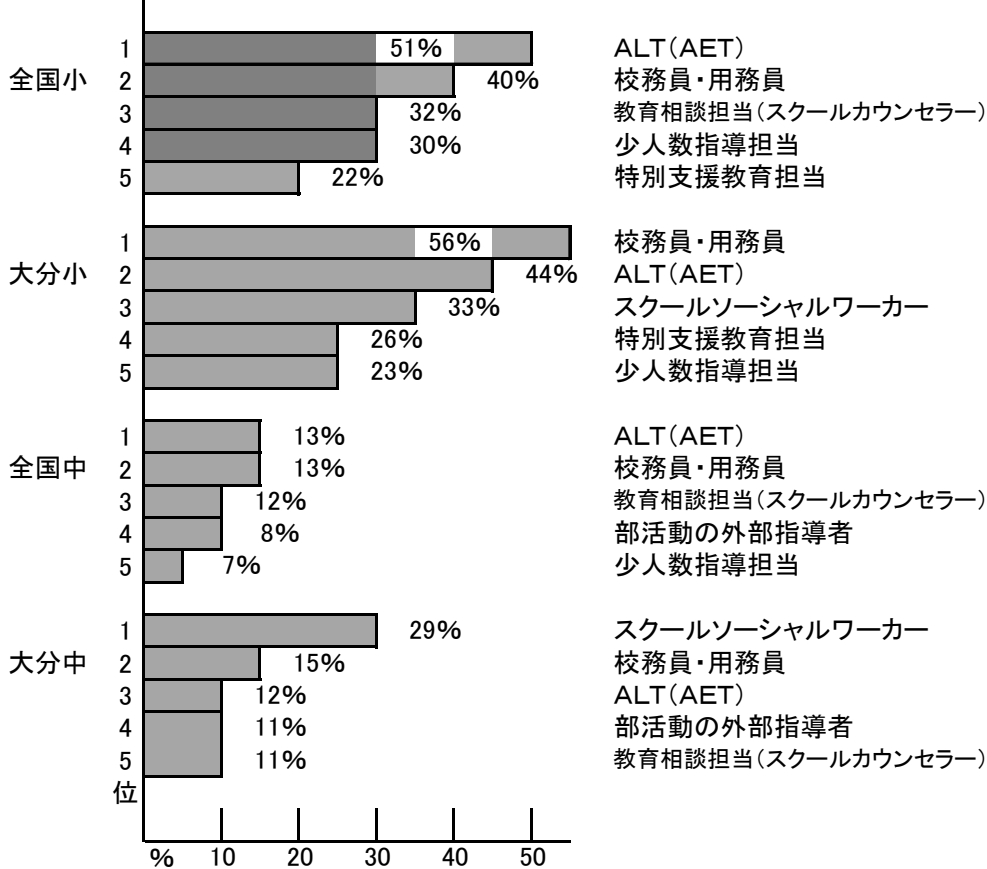


○ 全国的には専科教員、特別支援教育担当の配置が求められています。



◇ 大分では小中ともに事務職員の配置を求める割合が高い。

30. 自治体(市区町村教委等)独自で採用している教職員

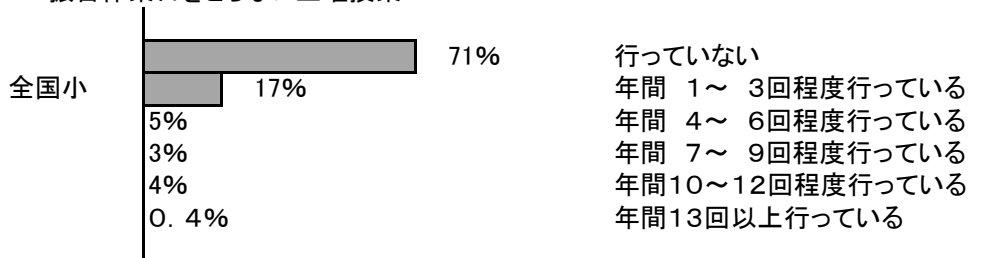


○ 全国的には小中ともにALT(AET)、校務員(用務員)の採用が多い。

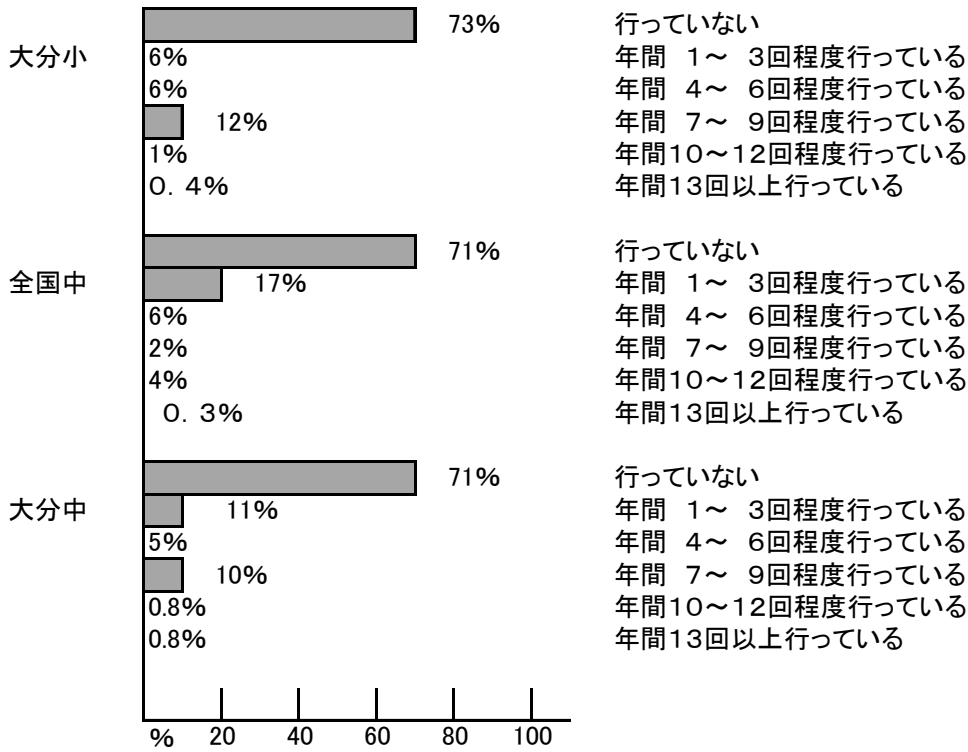
◇ 大分小では校務員(用務員)、ALT(AET)の採用が多い。

◇ 大分中ではスクールソーシャルワーカーの採用が多い。

31. 振替休業日をとらない土曜授業

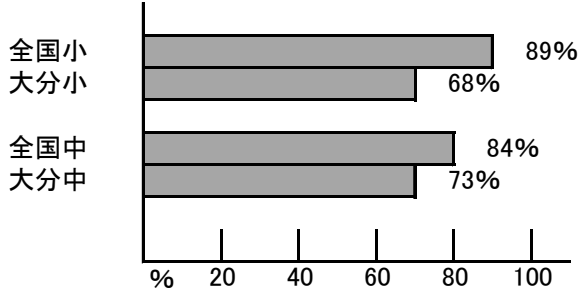


○ ◇ 全国、大分県ともに70%以上の学校は「振替休業日をとらない土曜授業」を行っていない。



◇ 大分県では年間7回~9回程度土曜授業を行っている学校が小中ともに1割程度あります。

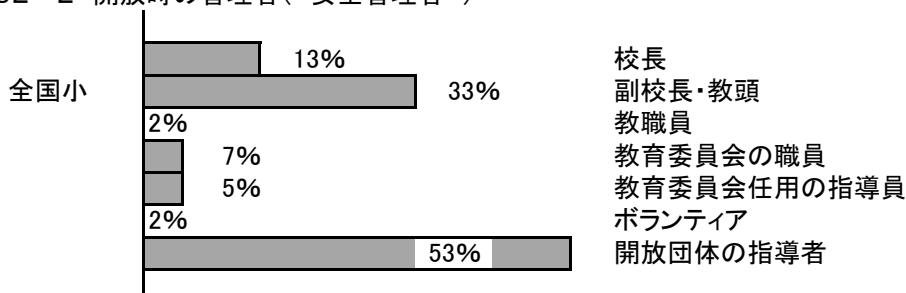
32. 学校開放を行っている



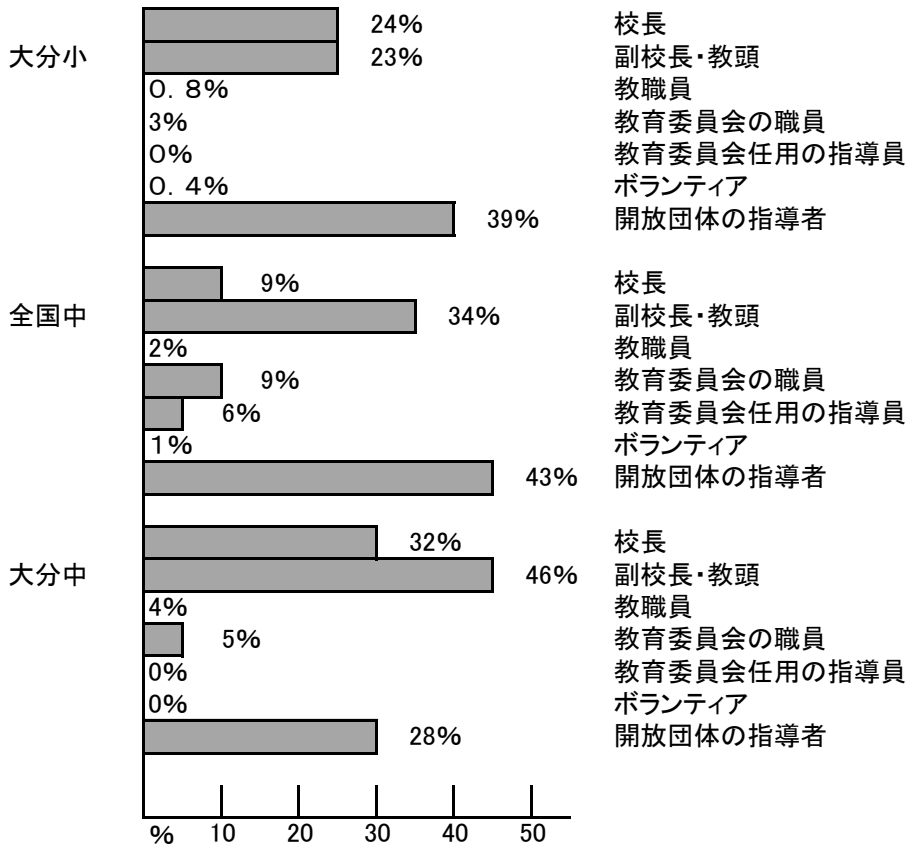
○ ◇ 学校開放を行っている学校は全国・大分県ともに増えています。

H30年 → 令和元年度
 大分小 48% → 68%
 大分中 55% → 73%

32-2 開放時の管理者(安全管理者)



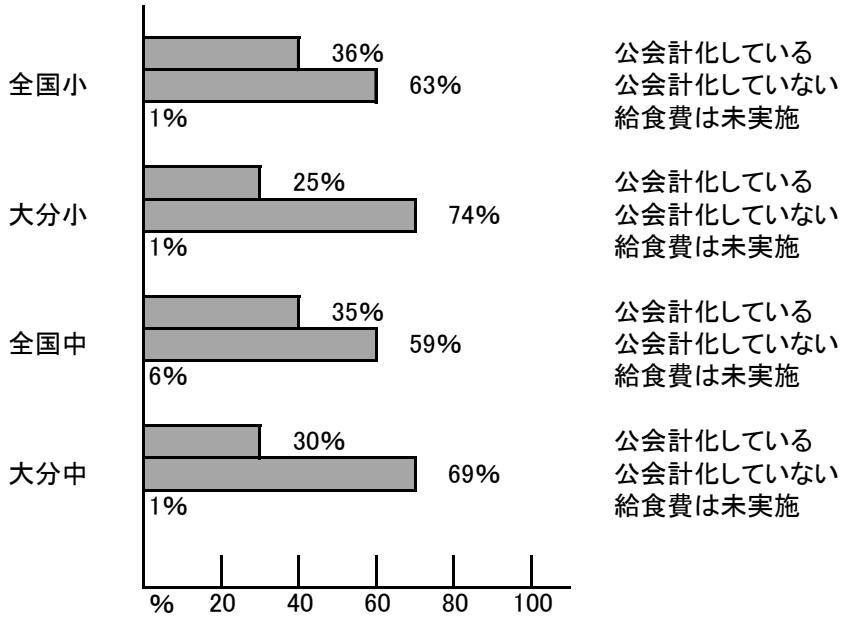
○ 全国では開放時の管理者は、
 1位 開放団体の指導者
 2位 副校長・教頭



◇ 大分小では開放時の管理者は、
1位 開放団体の指導者
2位 校長

◇ 大分中では開放時の管理者は、
1位 副校長・教頭
2位 校長

33-1 給食費の公会計化（市町村の歳入・歳出とすること）

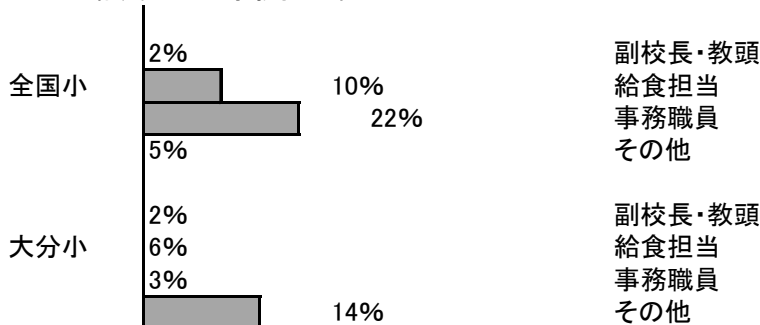


○ 全国の小中では「公会計化している」のは、36%程度

◇ 大分県の公会計化は
25%～30%

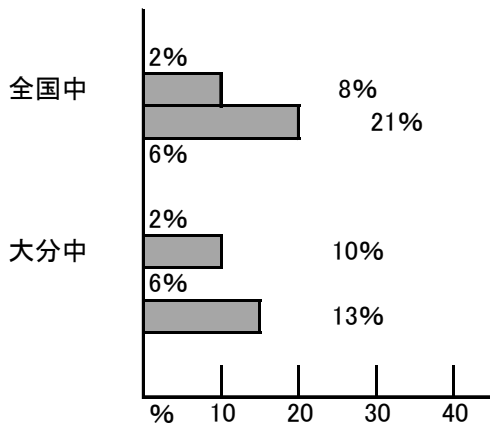
◇ 大分県の公会計化は全国ほど
進んでいない。

33-2 給食会計の事務担当者



○ 給食会計は全国的には
事務職員が担当している。

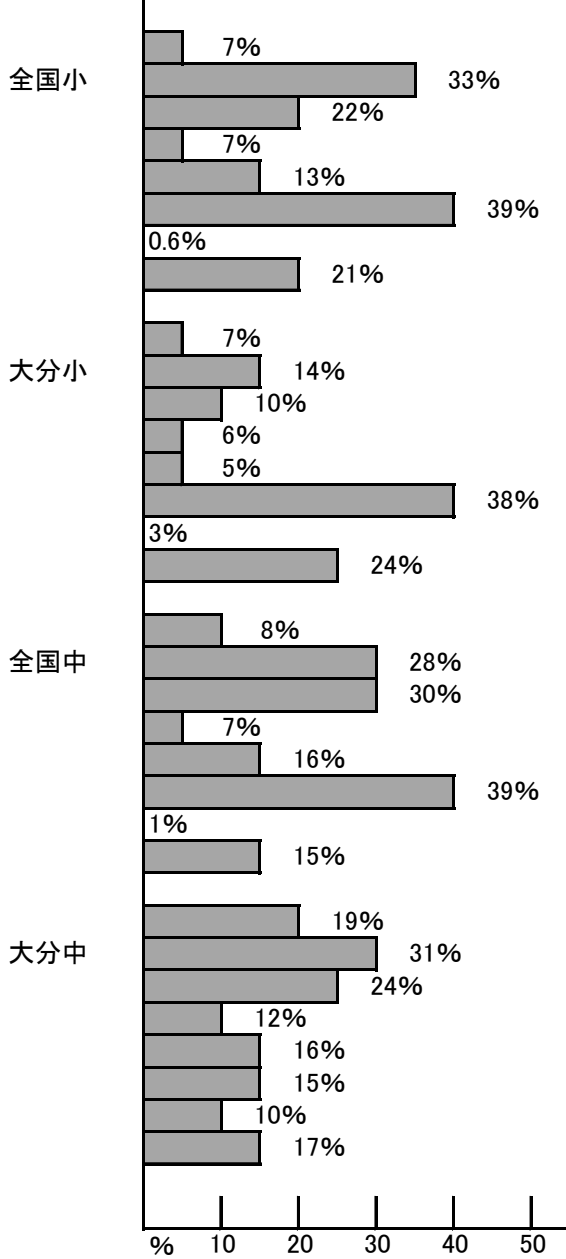
◇ 大分県では事務職員はほとんど
担当していない。
「その他」の回答が多い。



副校長・教頭
給食担当
事務職員
その他

副校長・教頭
給食担当
事務職員
その他

34. 給食費滞納整理担当者



校長
副校長・教頭
給食費担当職員・担任教諭・学年主任
栄養士・給食センター等職員
教育委員会または行政担当者
事務職員または事務補助員
PTA役員(保護者)
督促対象者なし

校長
副校長・教頭
給食費担当職員・担任教諭・学年主任
栄養士・給食センター等職員
教育委員会または行政担当者
事務職員または事務補助員
PTA役員(保護者)
督促対象者なし

校長
副校長・教頭
給食費担当職員・担任教諭・学年主任
栄養士・給食センター等職員
教育委員会または行政担当者
事務職員または事務補助員
PTA役員(保護者)
督促対象者なし

校長
副校長・教頭
給食費担当職員・担任教諭・学年主任
栄養士・給食センター等職員
教育委員会または行政担当者
事務職員または事務補助員
PTA役員(保護者)
督促対象者なし

○ 全国では副校長・教頭や事務職員又は事務補助員が担当している割合が高くなっています。

◇ 大分小では、事務職員又は事務補助員の割合が高い。

◇ 大分中では、副校長・教頭が担当する割合が高い。

令和元年度全国公立学校教頭会の調査～全国と大分県の比較～の分析

大分県公立学校教頭会

1. 全国と大分県の比較

[団体調査]

全国の「事務職員の配置」はほとんどの都道府県が国法に則って配置しています。また、自治体ごとに国の政策を補う形で事務職員を配置する等の政策を実施しています。全国の事務職員を配置は国より厚い都道府県もあるのです。従って、事務職を兼務していない学校は全国の小中学校の98%です。

この、当然と思われることが大分県はできていません。全国公立学校教頭会の調査によると、事務職を兼務している学校は小学校で33%77校、中学校で30%34校です。

[注: 令和元年度の事務職の兼務の校数は小学校84校、中学校37校です。(大分県公立学校教頭会の調査)]

教頭が事務職を兼務している状況は平成22年度から10年間続いています。

これだけ長期間、兼務状態を放置している都道府県は他にありません。文字どおり、大分県はワーストワンです。

この原因は大分県教育委員会が策定・実施している「事務職員等配置基準」にあります。

大分県では、事務職員等配置基準が大手を振っているため、「学校教育法」の規定が霞んでいます。まさに、「無理が通れば道理が引っこむ」です。国法の『例外規定』に基づいて策定された「事務職員等配置基準」は全国的には全く評価されていません。

大分県公立学校教頭会は、全国の平均水準の教育行政が大分県でも行われることを願っています。県内どの小学校・中学校にも学校事務職員が配置されているという状況は、全国の都道府県で見ることができる姿ですから。

[個人調査]

(1) 学校事務職員の「正規職員」の配置は全国は8割、大分県は3割です。

「学校事務職員の配置」について「なし」の回答は、大分県は30～33%です。

(2) 時間と労力を費やしている職務の第1位は、全国・大分県ともに「各種調査依頼等への対応」です。

2位以下は「保護者・PTAとの連携」「地域との連携」「施設・設備管理」「教職員の育成」などです。

(3) 疲労やストレスを感じる職務の第1位は、全国・大分県ともに「各種調査依頼等への対応」です。

2位は「苦情への対応」で、保護者や地域住民への対応にストレスを感じている教頭は多いようです。

(4) 全国的に12時間以上勤務している教頭の割合が小中学校とも7割を超えています。

大分県の中学校では12時間以上の勤務をしている割合が小学校は69%で、中学校は84.5%です。

(5) 地域行事への参加について、全国・大分県ともに1日以上10日未満の参加が7割～8割です。

(6) 教職員からの相談内容について、全国・大分県ともに第1位は「児童・生徒指導」、第2位は「保護者」です。

第3位以下は「校務分掌」「施設・設備」「授業」が上げられています。大分中には第5位に「部活動」が入っています。

(7) 校務支援システムの導入が全国・大分県ともに進んでいて、6割～7割が導入している。

(8) タイムカードによる出勤・退勤時刻の管理が全国・大分県ともに進んでいて、3割～4割が導入している。

(9) 全国的には「専科教員」「特別支援教育担当」の配置が求められていますが、大分県では小中ともに事務職員の配置を求める割合が36%と高い。

(10) 給食費の公会計化（市町村の歳入・歳出とすること）

全国の小中学校の60%、大分県の小中学校の70%は、まだ公会計化していません。

2. 要請活動

大分県公立学校教頭会は「事務職の兼務」をなくして全ての小中学校に事務職員を配置する要請活動に取り組んでいます。令和元年度の兼務の割合は30%で全国1位(ワーストワン)です。

この原因は大分県教育委員会が出している「事務職員等配置基準」にあります。この基準により、大分県下121校に学校事務職員は配置されていません。この基準は学校教育法の例外規定によって作った「基準」です。国の基準を大幅に下回る基準を設定・実施すること自体が憲法に違反するのではないかという疑いが生じています。

大分県公立学校教頭会は令和2年度も大分県教育委員会に「事務職員等配置基準」を廃止するとともに、「国の基準に則って学校事務職員を配置」するよう要請していきます。

また、市町村教育委員会には、次のように要望していきます。

「学校支援センター連絡協議会において、事務職員未配置校へ週1日～週2日、ひと月に4日～8日、学校事務職員に来校していただきますよう、学校支援センターへのご指導をお願いいたします。また、来校時の事務職員の仕事内容は『事務指導』ではなく、『事務仕事や事務支援』であることをご指導くださいますようお願いいたします。」

3. 過労死ライン

独立行政法人労働政策研究・研修機構によると、ひと月の超過勤務時間が100時間を超えるか、事故前の6ヶ月の労働時間の平均が80時間を超えると「過労死ライン」と呼ぶようです。大分県の中で1日の勤務時間の長い教頭は下の表の通りです。

年度	学校種別	1日の勤務時間			合計 人	割合 %
		13時間以上(人)	14時間以上(人)	15時間以上(人)		
平成28年度	小学校	73	24	7	104	38
	中学校	42	19	10	71	55
29年度	小学校	49	15	4	68	26
	中学校	32	20	9	61	48
30年度	小学校	38	12	1	51	19
	中学校	38	15	5	58	45
令和元年度	小学校	53	11	3	67	29
	中学校	23	21	4	48	42

全国公立学校教頭会の調査(平成28年度～令和元年度版)

1日の勤務時間が15時間を超える教頭は、ひと月の超過勤務時間が100時間を超えます。

これに該当する教頭は令和元年度は小学校3名、中学校4名です。

また、小学校では1日に勤務時間が13時間以上の教頭数が急増しています。中学校では勤務時間が14時間以上の教頭数が急増しています。これは、複数の原因による現象と思われるのですが、働き方改革のしわ寄せが副校長・教頭に集中していると読みとることもできます。

仮に、現職の教頭が死亡して、その原因が過労によると認定された場合、その責任はどなたがお取りになるのでしょうか。

4. 事務職員等配置基準

令和2年1月28日、大分県教育庁教育人事課は令和2年度の「事務職員等配置基準」を出しました。前年度と変わりません。

※ 全国公立学校教頭会の調査へご協力ください。

本年度の調査の大分県の副校長・教頭の数値は小学校234人、中学校113人でした。小学校が24人、中学校が9人少ないです。調査への協力が少ないと正確な数値がでません。

次年度はすべての副校長・教頭の調査への参加をお願いします。